

# 水の無意識 風の記憶

水と風がひとをつなぐ

2013年9月2日(月)～8日(日)  
映像インスタレーション『水の景』展示  
四居家(湖北観光案内所)土間ギャラリー



2013年9月8日(日)講演と演奏と作品発表  
長浜市曳山博物館 伝承スタジオ

# 水の無意識 風の記憶 ～水と風がひとをつなぐ～

2013年9月8日(日) 講演と演奏と作品発表

曳山博物館伝承スタジオにて 入場無料

第一部：講演 13:30～14:30

新宮一成、大橋 勝

第二部：演奏と作品発表 14:45～16:45

志村哲：講演と尺八演奏

土佐尚子：講演と作品発表

第三部：質疑応答・討論 17:00～18:00

第一部では水と風をめぐる議論を、新宮一成氏は精神医学の立場から、大橋勝氏は自作『水の景』を中心に、映像表現の観点から語ります。水にゆかりの深い長浜ならではの話題に、どうぞ耳を傾けて下さい。

第二部ではまず、志村哲氏のレクチャー・コンサートで尺八の音に親しんで下さい。そして土佐尚子氏のメディアアート作品をご覧下さい。液体に波動を与えることによって得られる一瞬の造形、ハイスピードカメラを介してのみ見ることで『音の生け花』は、自然の事物の性質とテクノロジーが融合した新しいアートの可能性を示すでしょう。

2013年9月2日(月)～8日(日) 9:30～17:30

映像インスタレーション『水の景』 入場無料

四居家(湖北観光案内所) 土間ギャラリーにて

構成・映像：大橋 勝 音響：志村 哲

長浜市を起点として、琵琶湖から大阪湾にいたる淀川水系をひとつの身体としてとらえる感覚。そのような感覚を表現するために、いくつかの水の風景と作家(大橋氏)の体の部位を対応させた映像を撮影し、それらを空間に配置して展示します。

会場である四居家は現存するものでは長浜最古の町家です。貴重な文化財でもある建造物の通り土間で展開する身体=インスタレーションを体験して下さい。



曳山博物館  
滋賀県長浜市元浜町 14-8  
TEL 0749-65-3300  
<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp>

四居家(湖北観光案内所)  
滋賀県長浜市元浜町 14-12

※曳山博物館と四居家は隣接しています。

JR長浜駅より徒歩6分

## 講師プロフィール



志村 哲 (哲) / SIMURA, Zempo, Satoshi

地無し尺八吹奏家・尺八研究者。尺八を西井竹翁師、西井松道師に師事し、明確対山派、明確真流派、櫻井派流風派、長州系、九州系ほか各派の古流本流を修得。

学術領域では、尺八研究の第一人者・元大阪芸術大学教授・故 月溪徹子師と30年に及ぶ全国尺八資料共同調査を行なうとともに、各地各派の伝承者から虚無僧尺八の特色と演奏技法を学び、古流尺八に関する音楽学・楽器学的研究で学術博士号を取得(1999)。

現在、大阪芸術大学音楽学専攻(音楽工学、情報音楽学、尺八実技担当)として「義務教育における日本音楽教育改革」と、今後、日本の音楽大学が欧米の音楽とアジア伝統芸術との文化的・人的な架け橋となれるような在り方を確立することに尽力している。

また、ライフワークとしては、2009年より大阪駅近くに「地無し尺八研究会・村流尺八博物館<松尾文彦 SYOHU BUNKO>」を開設し、尺八の研究・保存・継承・情報発信の場を主宰。

著書『古管尺八の楽学』出版芸術社、『事典 世界音楽の本』徳丸吉彦・高橋悠治・北中中和・渡辺裕(編)(共著)岩波書店、『音楽文化のすすめ-いま、ここにある音楽を理解するために』小西潤子・仲万美子・志村哲(共編著)ナカニシヤ出版、『幽玄なる響き-人間国宝・山口五郎の尺八と生涯』徳丸吉彦監修、月溪徹子・徳丸十雄・齊藤完(編)(共著)出版芸術社、他。

CDは、浜松市楽器博物館コレクションシリーズ6「古管尺八1～音の表情」、同26「地無し尺八の世界～理想の奥へ、響きの彼方へ」、同39「地無し尺八の可能性～新りから未来へ」(コジマ録音)、『高橋悠治の肖像』(avex-CLASSICS) 他。

演奏活動としては、国際尺八フェスティバル(ホルダー、ニューヨーク、シドニー、京都)における招待演奏・講演の他、多数の現代音楽作品の初演、NHK TVやFM ラジオ、放送大学の授業番組等に多数出演。また、 Hammondオルガン奏者・元大阪芸術大学講師・故 金森義徳と Cyber 尺八プロジェクト(コンピュータ音楽) および、ポピュラー音楽ライブを展開してきた。



土佐尚子 / TOSA Naoko

1961年福岡市に生まれ、国際的に知られた日本のメディアアーティストの先駆者である。

1980年代後半にMoMAのビデオアートのキュレーター(パ) (ロンドンの企画展「New Video Japan」)に選ばれ、国際的に知られるようになる。

芸術と工学の研究で、東京大学大学院工学研究科で博士号を取得、武蔵野美術大学映像学科非常勤講師(1989-2000年)

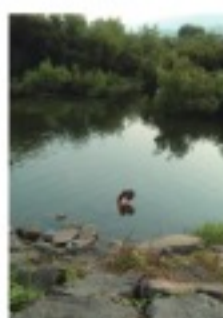
パウハウスのジョージ・ケベシュが設立したMIT高等視覚研究所のアーティストフェローで芸術活動と研究を行う。その後京都大学教授となり、教職と作家活動を両立している。

土佐尚子のアート表現は、無意識の可視化である。無意識は、超現実主義、精神分析のユングにおける無意識、さらには知覚心理や認知科学における無意識など、広い意味で使われており、私達の心の奥底にある脳内イメージとでもいえるものである。彼女はこのような言葉にできない脳内イメージの世界を文化を超えて、デジタル手法で可視化する「カルチュラルコンピューティング」を提唱し、著書「カルチュラルコンピューティング」(NTT出版)を執筆。

主な展覧会は、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ロングビーチ美術館など。

コレクションは、ニューヨーク近代美術館、国立国術美術館、富山県立近代美術館、名古屋市美術館、高松市美術館など。

主な受賞歴は、芸術と科学の融合に与えられるロレアル賞大賞受賞(1997年)、アレスエレクトロニカインタラクティブアート部門入賞(2001年)、ユネスコ主催インタナショナルヘリテージデジタルストーリーテリング公募展2位受賞(2004年)、2012年、韓国の麗水海洋博覧会からコミッション作品を依頼される。250mx30mのLEDスクリーンのeXP0デジタルギャラリーで、アジアをひとつにつなぐシンボル「四神旗」を制作し、表彰された。



大橋 勝 / OHASHI Masaru

1960年 岡山生まれ、映像作家

1985年 九州芸術工科大学(現・九州大学)芸術工学研究科修了

松本俊夫に師事し、大学在学中より実験映画、ビデオアートの研究・制作をはじめ。

実験映画、ビデオアート、写真、版画、オブジェ、インスタレーション、パフォーマンス等の作品多数。

2002年より映像作品を独自スペース「Peephole Theater」(大阪市阿倍野区)で常時上映する展示を連続開催、現在も継続中。

訳書に「ワールド・シネマ・ヒストリー」(アンドレア・グローネマイヤー著、長澤嘉郎)、『実験映像の歴史』(A.L.リーズ著、長澤嘉郎) といずれも共訳

現在 大阪芸術大学芸術学部映像学科専任講師、日本映像学会会員、日本アニメーション学会会員



新宮一成 / SHINGU Kazushige

1975年より精神科医として活動。

1988年より京都大学教養部、1991年より同大学大学院人間・環境学研究所の教員。

著書に『夢と構造』(文芸堂、1988年)、『無意識の心理学』(金沢出版、1989年)、『ラカンと精神分析』(講談社現代新書、1995年)、『無意識の組織』(岩波書店、1997年)、『夢分析』(岩波新書、2000年)、など。

現在、フロイトの新訳「フロイト全集」(岩波書店)の編集委員。

主催：京都大学風雅のまちづくり長浜研究所／長浜市

共催／お問い合わせ：京都大学大学院人間・環境学研究所 新宮一成精神医学的精神分析プロジェクト SSSP

TEL 075-753-2914 <http://www.priborwien.net>